

戸田康之さん『オミクロン株』（3月14日配信）

こんにちは！戸田です。よろしく。

今日のお話は、コロナウイルスの中で、今流行している変異株のオミクロン株についてです。

今、私はろう学校で働いています。幼稚部で3歳から5歳の子どもたちを相手に仕事をしています。私は5歳児クラスの担任です。

子どもたちとコロナのことについて話をしたことがあるのですが、その時に私がコロナウイルスの絵をこんなふうに描いたんです。こんなイメージかなと思い、丸い形のまわりにT字のとげがあるような絵を描いて、コロナが流行っているから、マスクや手洗いや消毒をしなくちゃいけないんだよ、もし自分にうつったら熱や咳が出たりして大変なんだよ、というような話をすると、子どもたちはまじめに話を聞いていて、十分理解していたようでした。

ですが、今のウイルスは変異株ですよ。オミクロン株と言って感染力の強いウイルスですが、私はその話もしたんです。その時に、以前描いた絵とは違う絵にしないといけないなと思いました。どうしようか考えて、デタラメなんですけど、色を先ほどの絵は赤で描いたのですが、変異株だからどこか変えないかと思い、緑色で描くことにしました。そして、緑色でどこを変えようかと考え、Tの字のとげの間にYの字のとげを描きました。それがこちらです。これは私の創作で本当の形ではありませんが、子どもたちがイメージしやすいように色や形を変え、ウイルスの表情も書き加えて、今流行っているコロナは普通のコロナウイルスじゃなくてもっと強くなって、あっという間に広まっちゃうんだよ、というような話をしました。子どもたちは身を乗り出して話を聞いていて、今見たウイルスの絵を覚えてすぐに自分でオミクロン株の絵を描いていました。その中のひとつがこんな絵です。面白いですよ。子どもたちは見たものをすぐに絵にしていました。

しかし、オミクロン株を表す手話がありません。なので、私は仕方なく指文字で「オミクロン」と表した後、絵に描いた形をこのようにやってみたんです。すると子どもたちはそれを見てすぐに、こうやってオミクロンを表したんです。この絵の丸いものからとげがたくさん出ている形を見てこのようにやったんですね。私は、子どもたちのその手話がすごくいいと思い、指文字でいちいちやらずに子どもたちの表現を使っていたら、その手話がみんなに定着してしまいました。今は私のいるろう学校の幼稚部の私のクラスの子たちは、指文字ではなく、これがオミクロン株の手話表現です。

ろうの子どもたちが、絵から得たイメージで手話表現を作ってしまうことにすばらしいなと思いました。